

(1) 地下鐵道掘鑿のため架道橋の鈹桁を支へる構桁の正面。構桁は在來の橋脚を挟んで中心間隔2.0mに架設される。上方が架道橋のガーダーで中央が在來の橋脚。

## 新橋驛附近二葉町架道橋下地下鐵道工事

鐵道省東京改良事務所

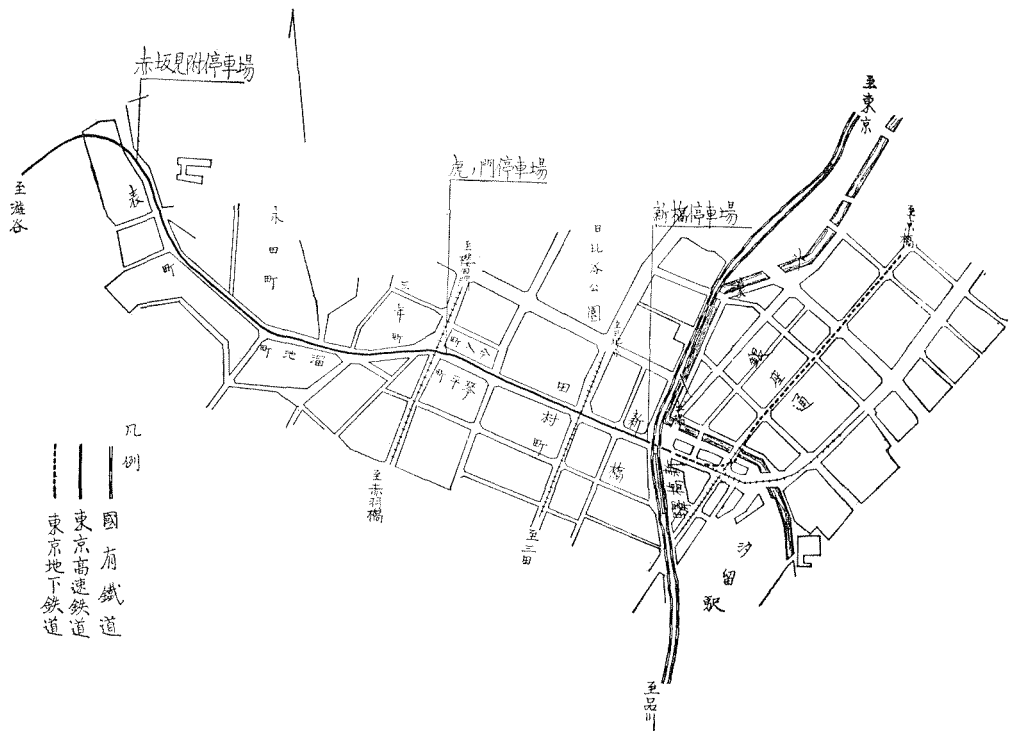
東京高速鐵道澁谷新橋間は山手線澁谷驛から宮益坂上迄約250米間は高架線で、それから地下鐵道となつて赤坂見附、虎ノ門、田村町一丁目を経て第一圖第二圖に示してある如く新橋驛附近に於て省線の下を通り目下營業中の東京地下鐵道に連絡する延長約6.3軒の路線である。此の終端に位する新橋驛北口二葉町架道橋附近は東海道線山手京濱兩線の在來高架線並に増設高架線に重大なる關係が有るので目下其の施工は鐵道省東京改良事務所で受託工事中である。

在來二葉町架道橋は第二圖第三圖に示してある如く三徑間の鉸桁であつて道路の中間に二列の橋脚がある。橋脚の基礎は床石の下に深さ約2.5米の基礎コンクリートと長さ約7.0米の基礎杭が打つてある従つて點線で示して

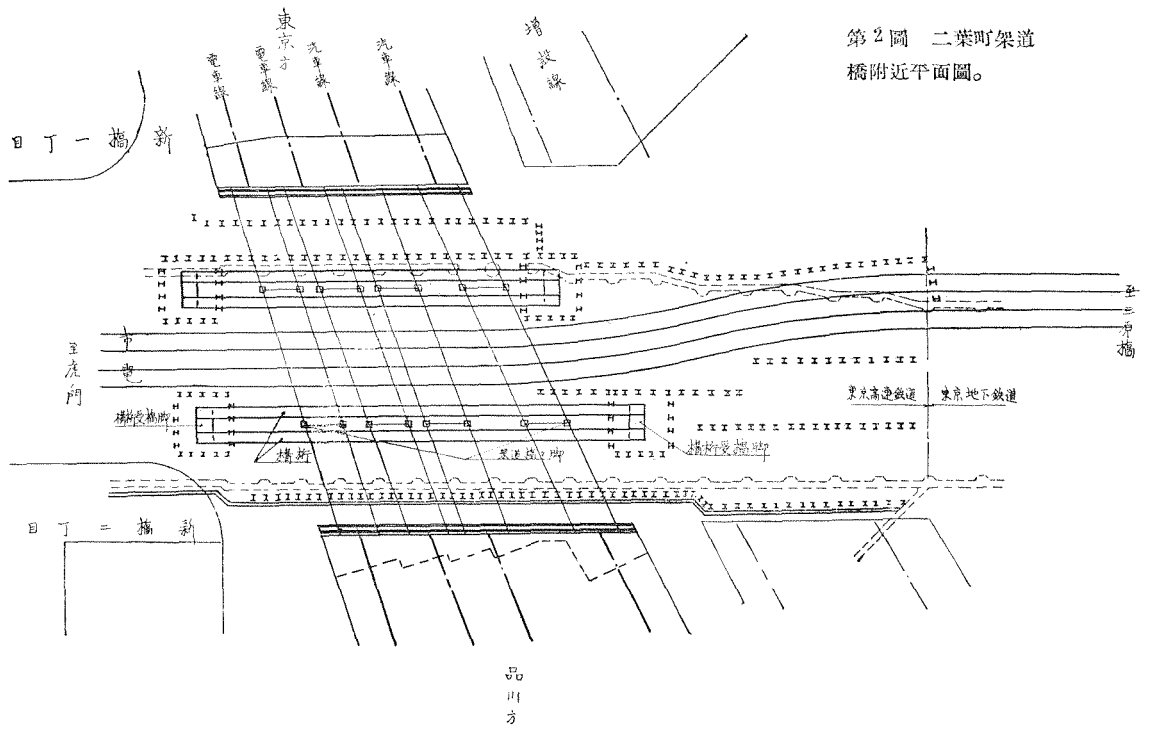
ある様に構築を築造する爲め橋脚部分は全部掘鑿せられるが故に、其の橋脚を挟み中心間隔2.0米に構桁を架設し工事中架道橋の鉸桁を構桁の上弦材に支へ、在來の橋脚を撤去し、尙構桁の兩側に打込んだ土留杭の頂部に緊結してある溝形鋼及山形鋼と構桁の下弦材とに工形桁を渡し路面荷重及市電荷重を受けて掘鑿に取りかゝるものである。

上記の構桁は第二圖第三圖第四圖に示してある如く架道橋を外れて掘鑿施工した基礎コンクリートの上に鐵塔の橋脚を建植し構桁を支へる構造となつてゐる。

而して構築（鐵骨鐵筋コンクリート構造）完成の暁は構築上に築造してある架道橋々脚基礎鐵筋コンクリート桁上に在來橋脚を復舊するものである。



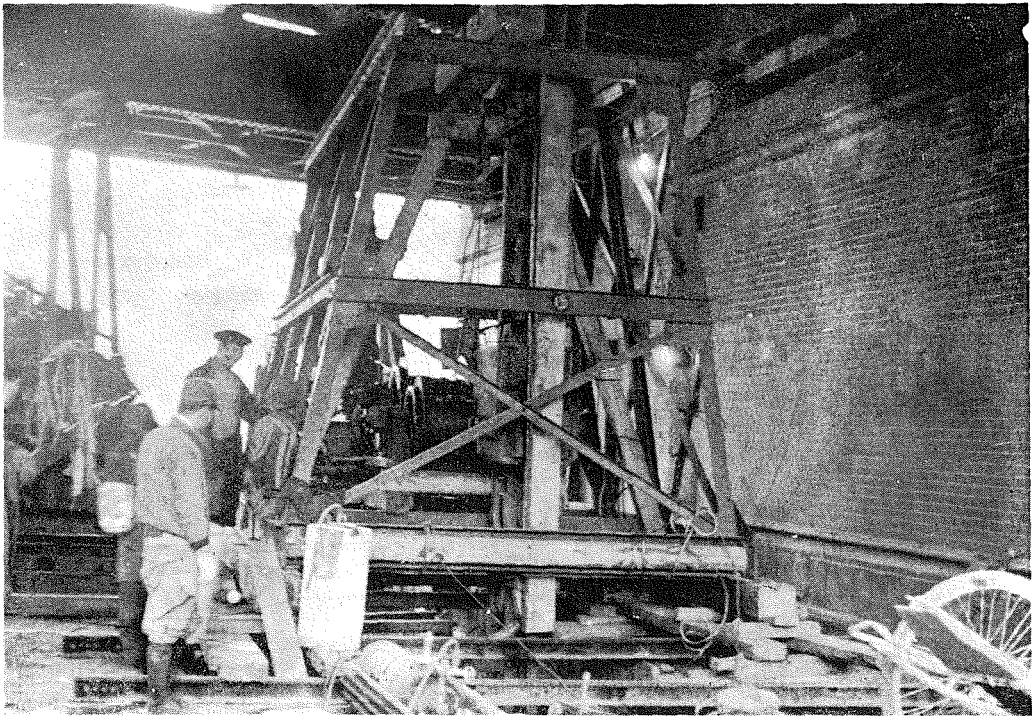
第1圖 新橋驛附近線路平面圖。



第2圖 二葉町架道橋附近平面圖。

(2) 工事着手當時の二葉町架道橋。虎の門側より三原橋方を望む。



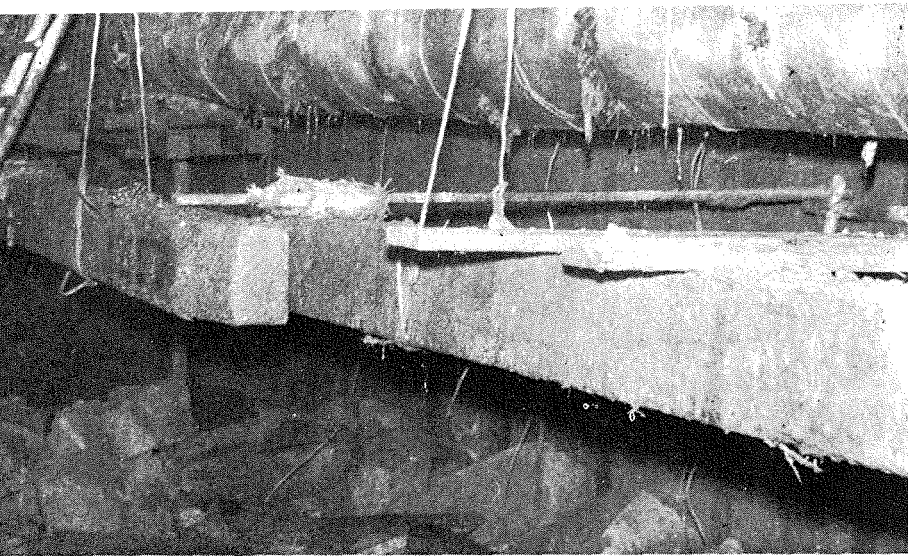


(3) 土留杭打作業・路面と鉄桁との間は僅か4 m20に過ぎず、普通杭打が出来ないので杭(又は鋼矢板)を3 m内外に切断、継足し乍ら打ち込んだ。

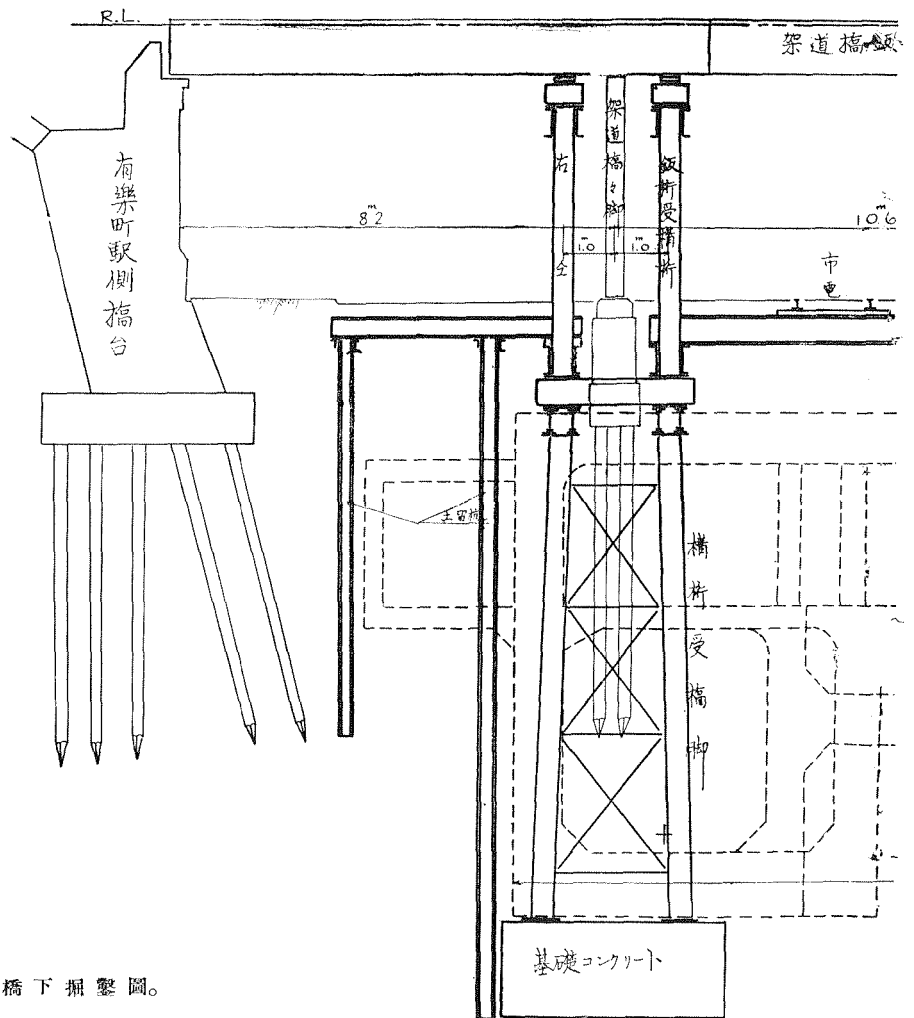
(4) 杭(工鋼)の継足し。

(5) 鋼矢板の継足。

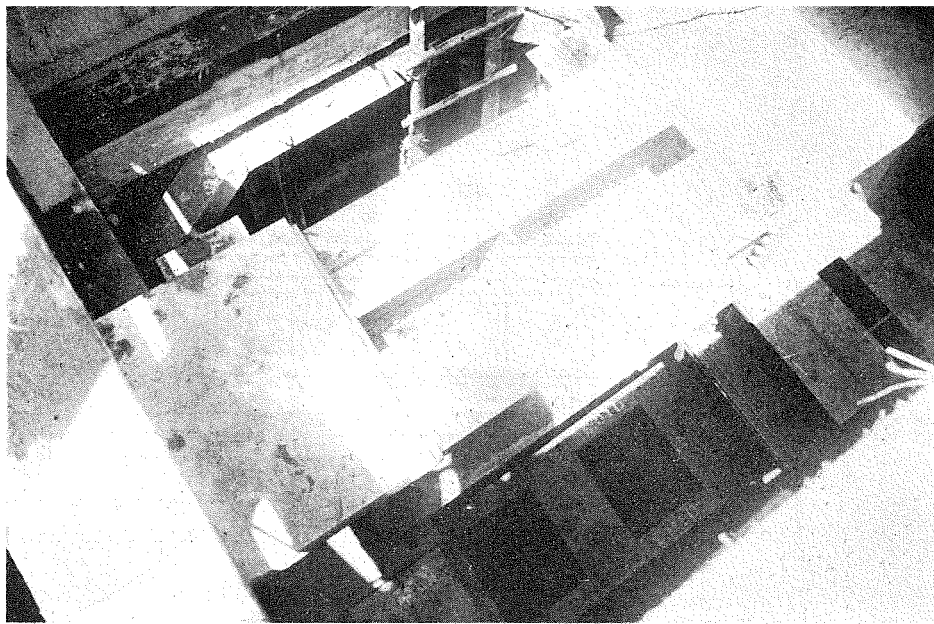




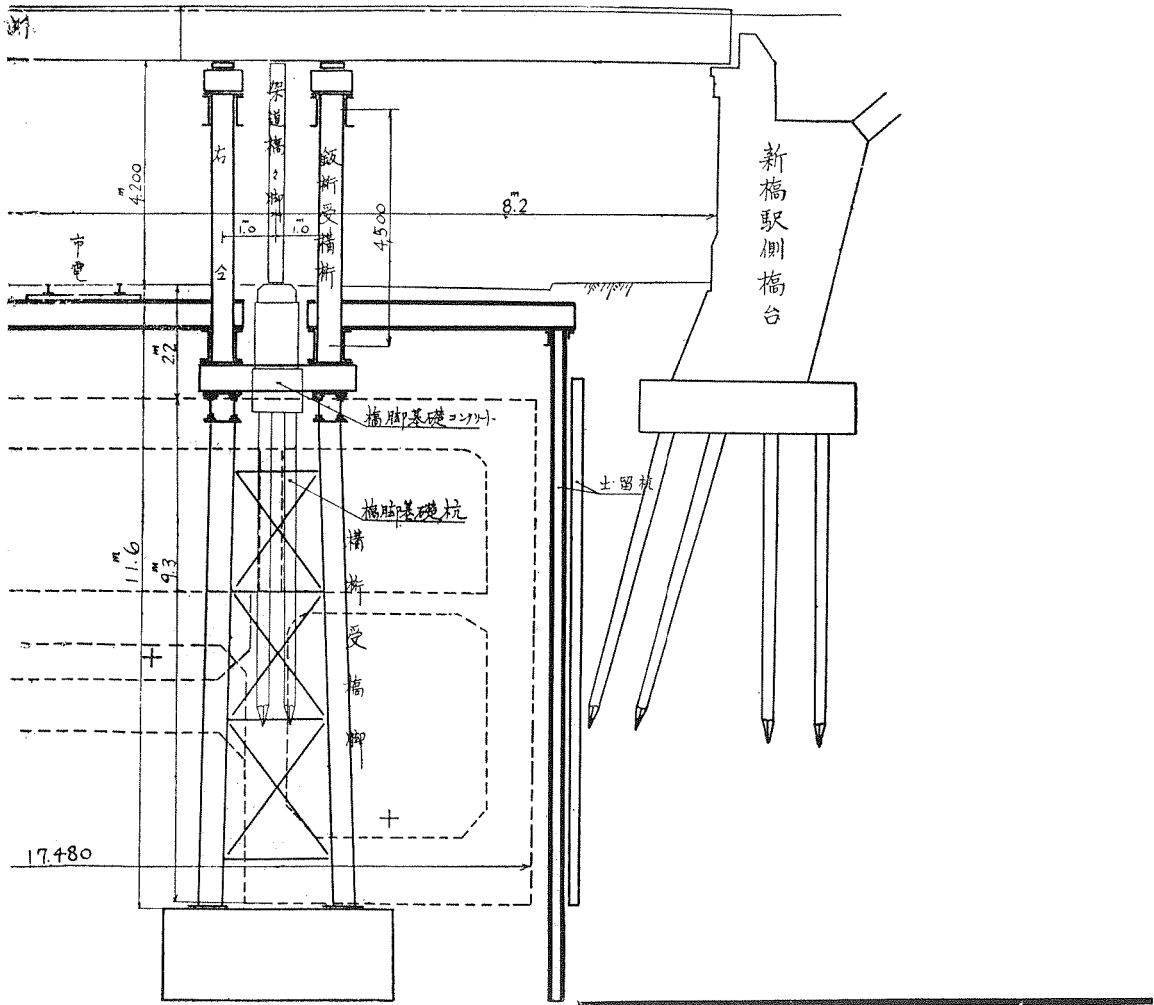
(6) 構桁受橋脚部の掘鑿状況。



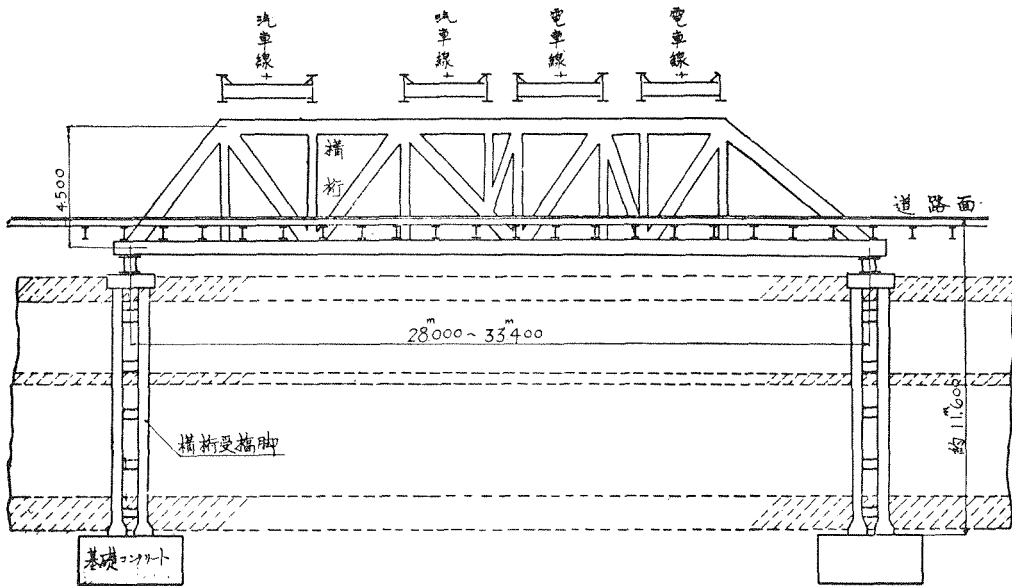
第3圖 二葉架道橋下掘鑿圖。



(7) 組立を終つた  
構桁受橋脚。

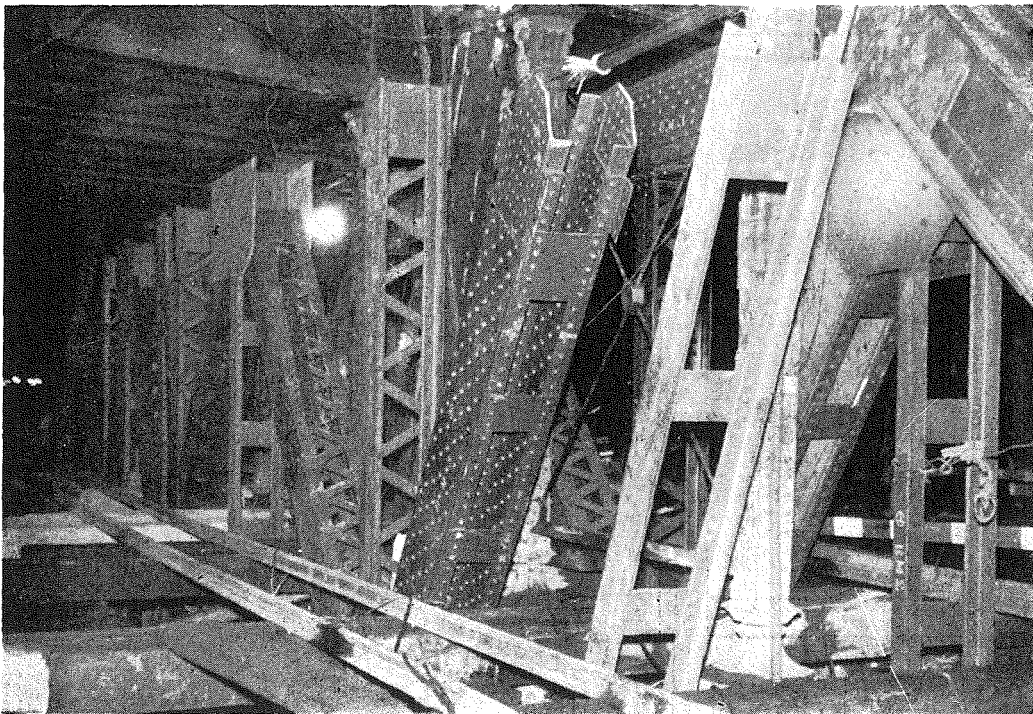


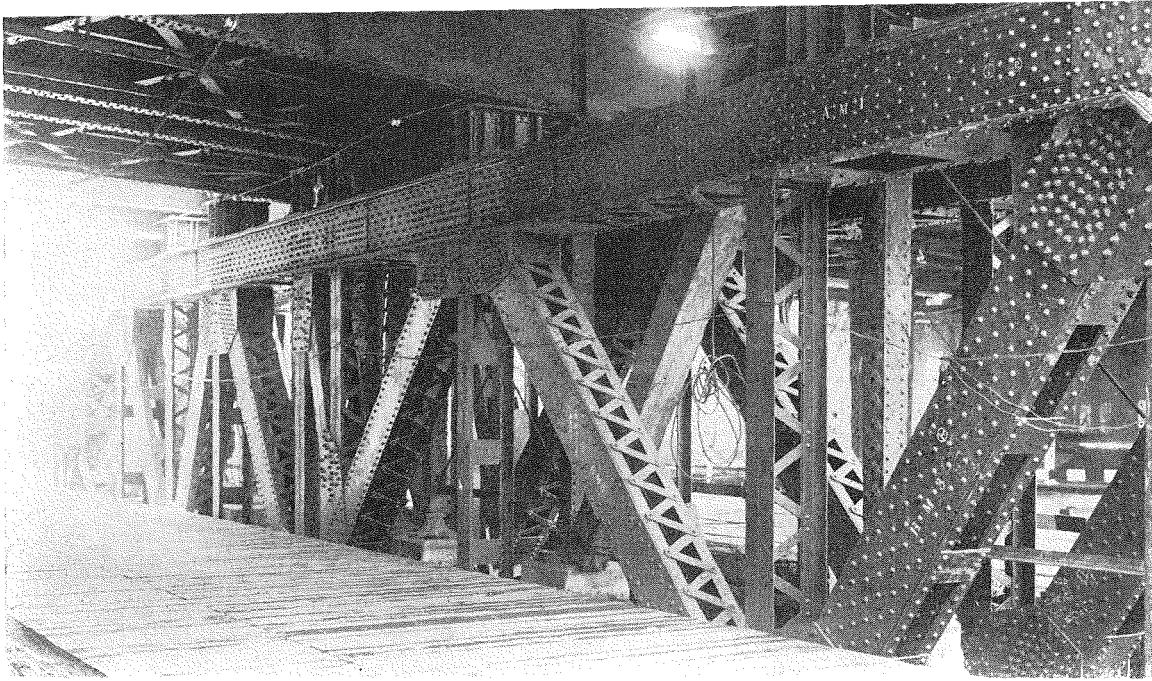




第4圖 二葉町架道橋鈹桁受構桁側面圖。

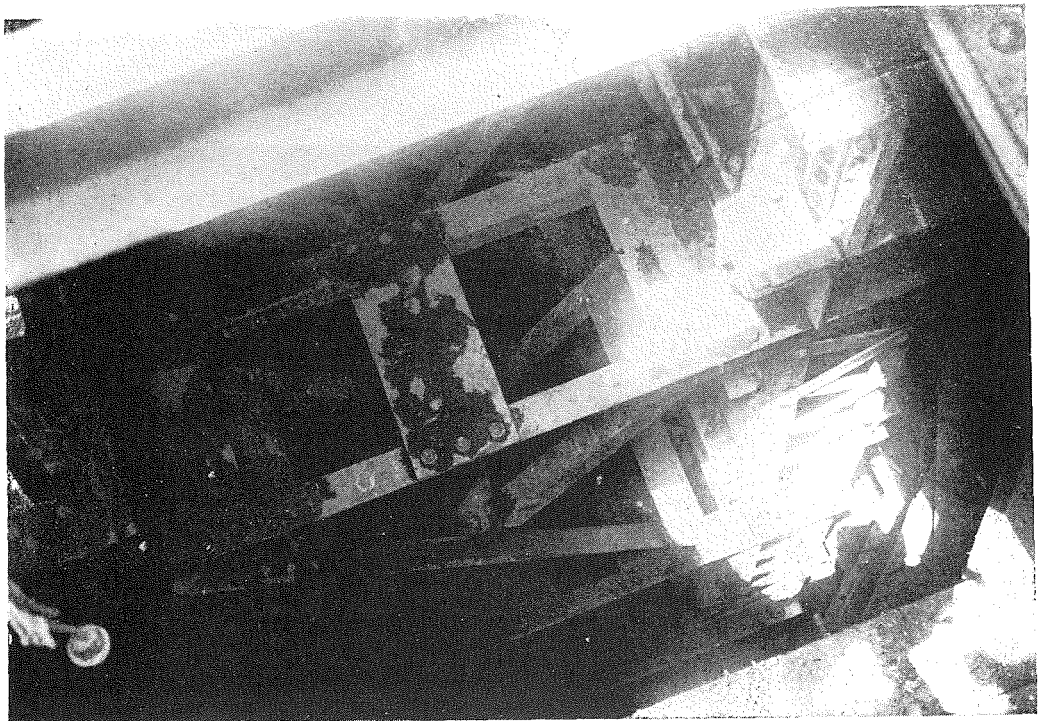
(8) 構桁の組立作業・品川方橋脚部分。



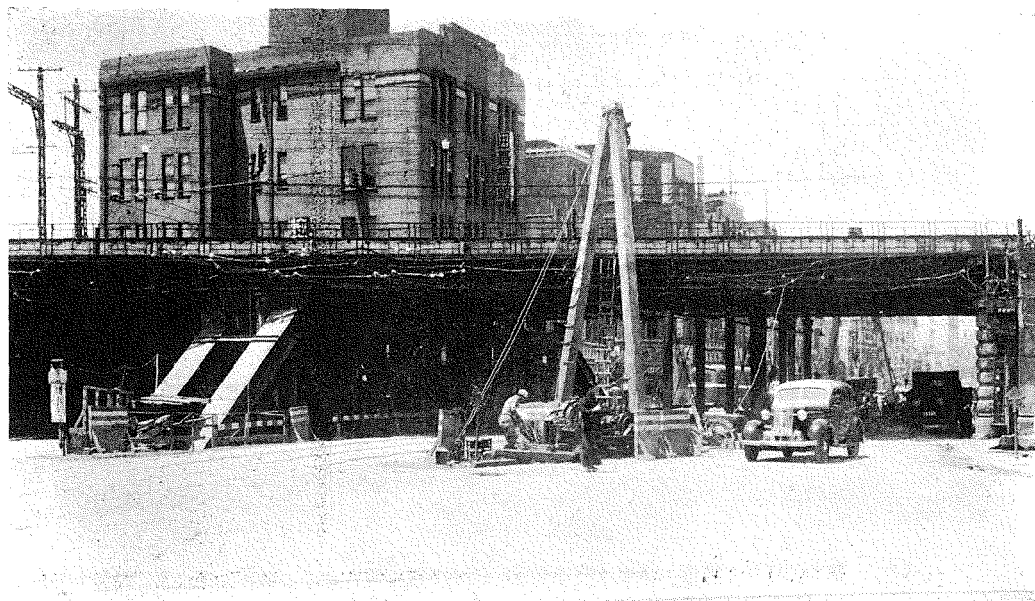


(9) 組立を終りし構桁・現場は交通頻繁を極め架設作業は意外の困難を感じた。構桁製作横河橋梁製作所・請負大倉土木株式会社・施工鈴木工業所。

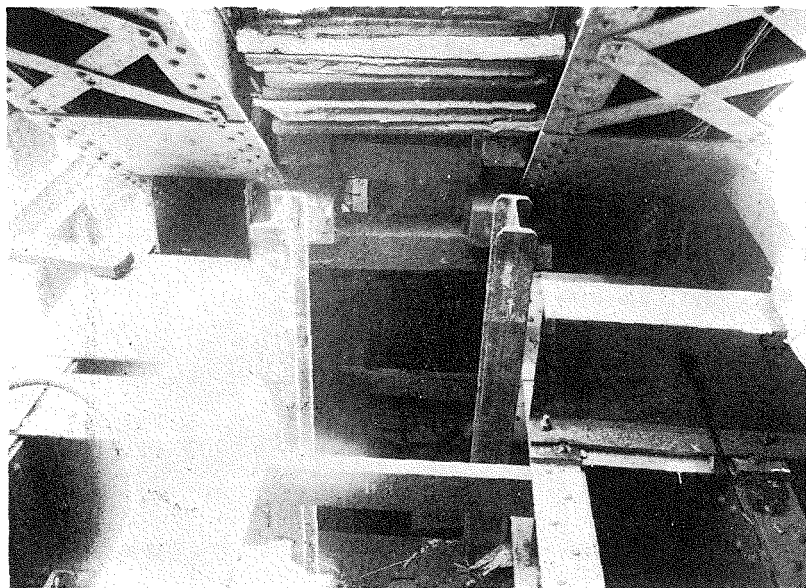
(10) 同上橋脚部分。







(11) 品川方橋脚の構桁架設を終り、東京方  
構桁架設を開始せんとしつつある現場全景。



(12) 構桁端詳細。